

三浦半島，津久井ならびにその周辺の宮田層

蟹 江 康 光*

The Miyata Formation at Tsukui and its Environs, Miura Peninsula

Yasumitsu KANIE

(With 7 Text-figures and English Abstract)

1. ま え が き

三浦半島南部には宮田層と呼ばれる洪積世の地層が第三紀層を不整合におおって分布している。南部では三浦層群と逆断層で接し，北部では葉山層群と断層で接しているけれども一部の地域で葉山層群あるいは三浦層群と直接不整合状態で接している。東西南北ともに幅 4 km にわたって分布する。

津久井は宮田層の堆積盆地の北東部にある。数年前，津久井浜駅西方に大きな露頭が作られた。この露頭から多量の貝化石を産し，その産状はいわゆる“化石床”型を示している。けれどもこれに関する研究は露頭が小さかった頃，藤田(1953)が簡単な記載を行なったのみである。

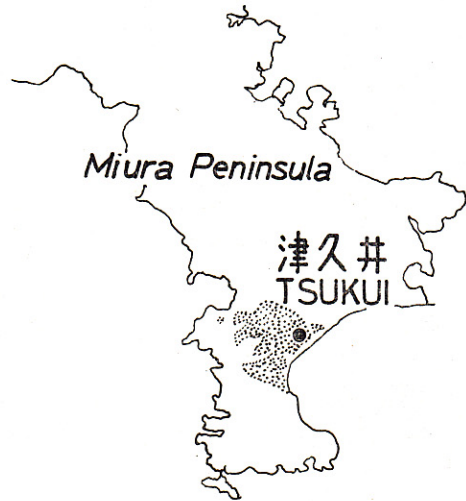
2. 従 来 の 研 究

宮田層の層位については鈴木(1932)の研究がある。鈴木は横須賀市大木根で宮田層内の不整合関係を示す露頭を報告し，下位より初声層，大木根層に分けた。

| 地層名 | 岩 相 | 貝 化 石 |
|-------|-------------------|---|
| 大木根層 | 一般に無化石 砂礫あるいは砂 | 上位は浅海性 下位は半淡水性 |
| 初 声 層 | おもに凝灰質砂 | 汀線付近であるが，上宮 田地域のものの方が，下 宮田のものより深い |

後，鈴木・藤田は大木根付近を再調査して不整合の存在を撤回した。

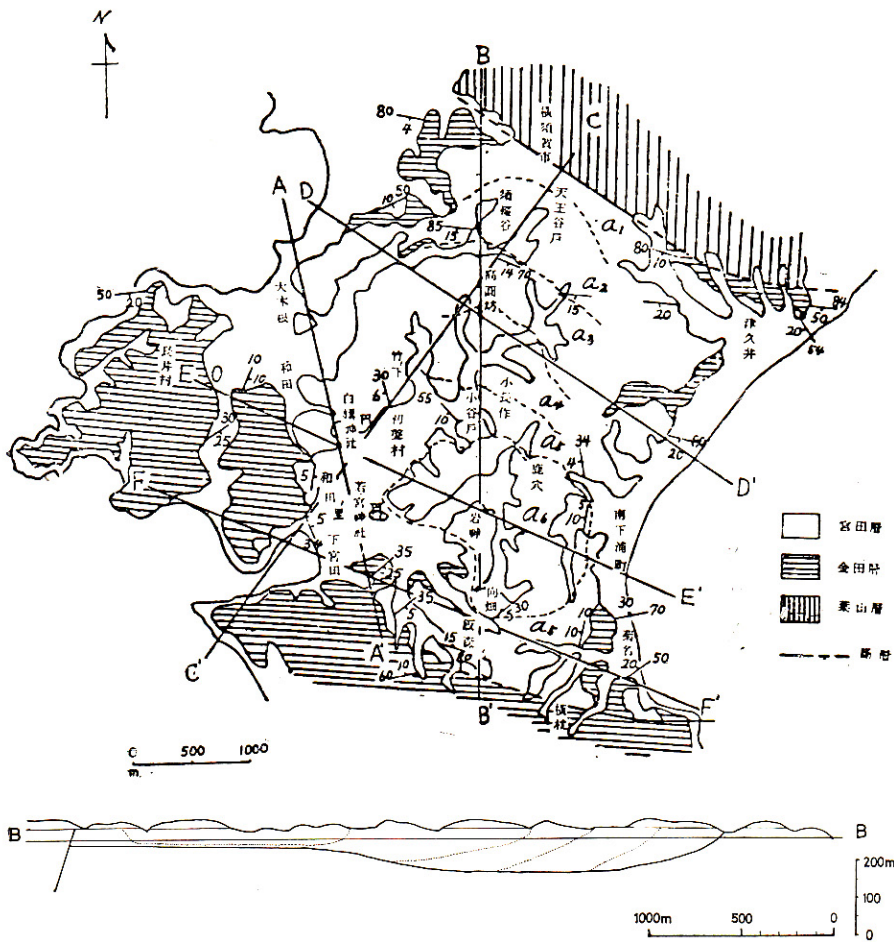
藤田(1951)によれば宮田層の分布地域の北部には下部層(a₁, 礫, 砂)だけが分布する。また中央部には中部層(a₂₋₄, 砂)だけが分布し，その上位には上部層(a₅, 含雲母砂)，最上部層(a₆, 泥, 砂泥)は発達しない。南部，南東部，南西部では上部層(a₅)が直接，三浦層群を不整合におおっている。これらの事実より宮田層を堆積した基盤の沈降運動は北部からはじまり，漸次南部に移っていったものと推論し，宮田層を作っている盆状構造はこのような基盤の沈降運動に伴って地層の生成運動の継続中に形成されたといっている。



第1図 細目の部分は宮田層の分布地域
Index map of the Tsukui district.
Miyata formation lies in dashed area.

* 横須賀市博物館 Yokosuka City Museum.

原稿受理 1970年12月1日，横須賀市博物館業績 第217号



第2図 宮田層地質図 After FUJITA (1951).

竹内 (1959 MS) は宮田層を下位より M_1 , M_2 , M_3 , M_4 層にわけ, M_1 層 (青灰色粗砂は北縁部, M_2 層 (雲母質黄褐色細砂) は北部, M_3 層 (含化石粗砂) は東部・南部, M_4 層 (含化石シルト) は中央部に分布していることを示した*。

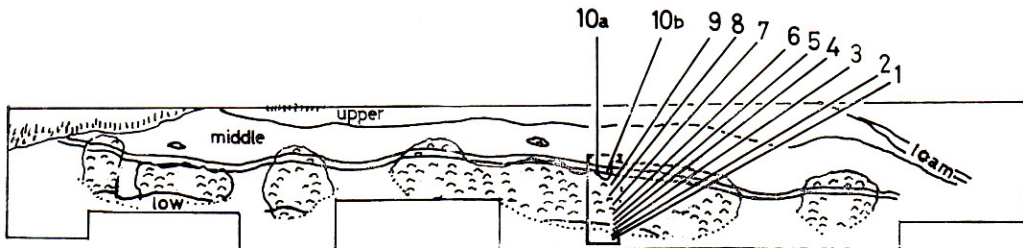
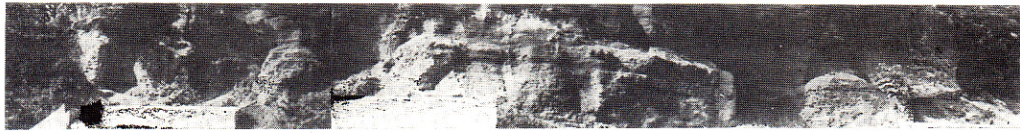
3. 津久井の露頭の記載

藤田 (1953) は津久井の露頭を Loc. 148 の“a 化石層”として報告し, *Rotaria nipponica* ASANO, *Elphidium fax barbarentis* NICOL などの有孔虫化石を特徴種として報告した。

津久井の露頭は大きく, 下部, 中部, 上部層にわけられる。下部層は含化石雲母質砂, 中部は“化石層”** 型の化石産出状態を示すスコリア質砂礫層, 上部層はクロスラミナの発達したスコリア質砂礫層で, その最上位にきわめて薄いローム層がのっている。第3図は露頭の全景および区分, 名称の略図, 第4図に柱状図を示す。

* 三梨 (MS) は一騎塚~大木根間の宮田層を調査して, 下位にゴマシオタフ, 中位にスコリアタフを認め, スコリアタフより上位に火砕物質が多くなり, 房総半島北部の地蔵堂層, 横浜南部の屏風ヶ浦層と対比している。

** いわゆる“化石床”



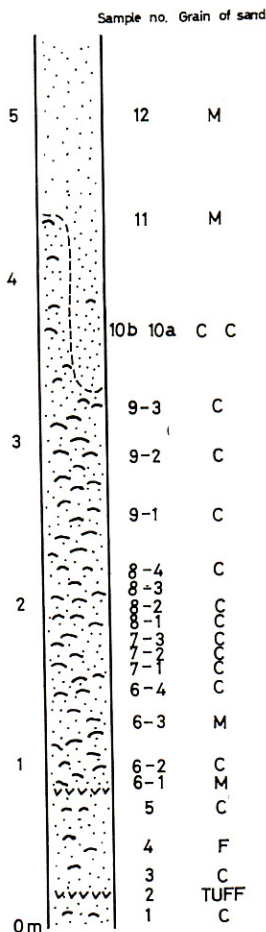
第3図 津久井の露頭 Outcrop of Tsukui.

化石の産状で注目されるのは中部層の化石産状である。第3図に示すように化石の入っている部分が断続的であることである。しかし、化石の入っている部分と入っていない部分との岩相は区別しがたく、両者の接する部分も境界らしい岩相の違いはない。一見、化石の入っていない部分に殻が溶けた軟体動物の跡が多くみられた。化石内容の示す HDM 曲線は N35° と N39° にピークを示し、VDM 曲線 (生越) は N₁ と N₃ (大山) の深度にピークを示している。(横浜国立大学地学科生, 1967 MS)

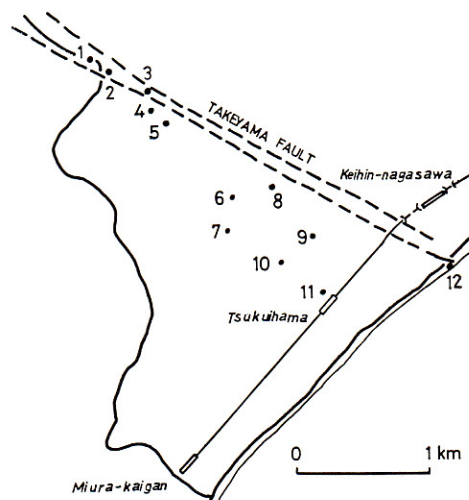
この露頭はゆるく西へ傾いている。

4. 津久井周辺の宮田層

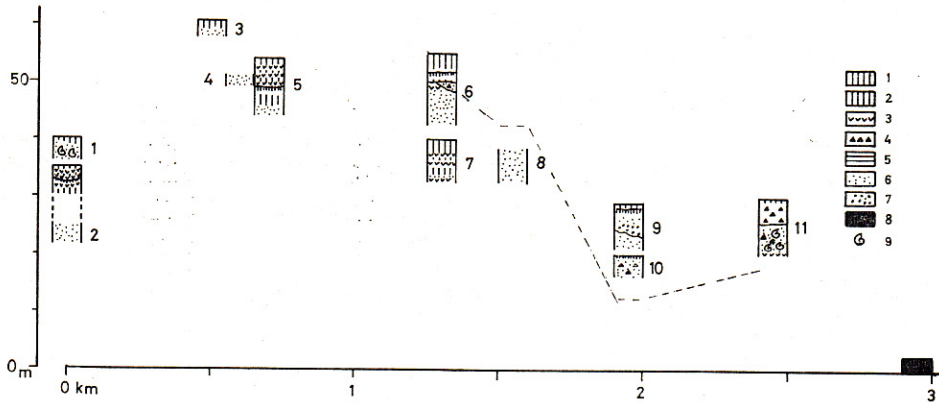
津久井の露頭にみられる凝灰質砂礫層の岩相は従来、報告された宮田層の岩相にみられなかった。津久井でみられた岩相を追跡するために今回、武山断層ふきんの津久井、



第4図 津久井の宮田層柱状図
Columnar section of the Tsukui outcrop.

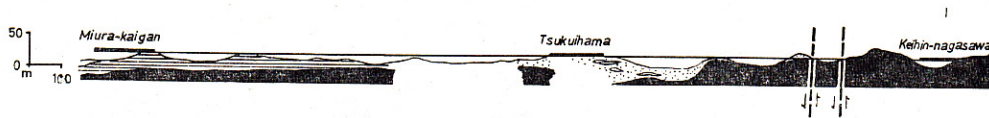


第5図 調査地点図。津久井の露頭は No. 11
Locality map. Outcrop of Tsukui is no. 11.



第6図 調査地点の地質柱状図 Geological columnner section.

1: loam, 2: crack zone, 3: pumice, 4: scoria, 5: mud, 6: sand, 7: gravel, 8: basement, 9: shell fossil.



第7図 三浦海岸—津久井浜—京浜長沢の地質断面図

Geological section of the Miura-Kaigan—Tsukuihama—Keihin-nagasawa.
Symbols refer to fig. 6.

須軽谷，一騎塚南方を調査した。調査をしなかった堆積盆地の南部には内湾性貝化石，ナウマン象化石を含む砂泥層が分布している。調査地点を第5図に，その柱状図を第6図に示した。南西方向の地質は京浜急行延長工事地質調査報告を参考にして第7図を作成した。

5. 津久井露頭の層位的な位置

藤田 (1953) はこの露頭を“a 化石層”として報告し，宮田層最下部層である a₁ 層の基底部近くの層位においた。

筆者の津久井露頭ならびにその周辺の観察では

1. “化石層”の延長は Loc. 11 以外に認められなかった。凝灰質砂礫層の延長は Loc. 6, 10 にみられる。Loc. 6 の露頭では Slumping 構造のみられる厚い含雲母砂層を切って上位に凝灰質砂礫層がのっている。

2. 含雲母砂層は中位以下を占め，堆積盆地の中央部，南部に広く分布している。

3. 宮田層の上位にのるローム層が薄い。

4. 本館に保管されている古生物標本の中に「宮田，元屋敷」産と書かれた多量の標本があり，化石の内容は津久井産のものに酷似している。しかし岩相は元屋敷付近産のものの方がより泥質である。筆者は元屋敷付近を調査したけれども，いまのところこの標本の産地をみつけることができなかった。津久井産の化石の内容は内湾性のものから外洋性のもの，汽水性のもの，亜浅海性のものの広さにわたっている。最も多産する化石は *Venericardia ferrunginea*, *Limopsis crenata* である。*Ostrea gigas*, *Glycymeris yessoensis*, *G. vestita* も多いけれどもひどく摩滅している。津久井産の化石は元屋敷ならびにその周辺からの2次化石の可能性も考えられる。

これらの事実から津久井の露頭に見られる宮田層は，従来報告されている地層である下位の地層を切っただけの最上位層の可能性もある。観察地点が少ないので，今回予報として報告する。

謝 辞

稿を終るにあたり、横浜国立大学の鹿間時夫教授、国立科学博物館の長谷川善和氏からはたえず、ご指導、ご批判をいただき、また末公表資料を閲覧させていただいた。地質調査所の大山桂氏、三梨昂氏からは末公表の調査資料を、京浜急行電鉄株式会社からは沿線の地質調査資料を拝見させていただいた。横浜国立大学の江藤哲人氏は多くの協力とご助言をいただいた。追浜高等学校の石塚登教諭ならびに地学クラブの方々には地質調査とサンプリングにご協力いただいた。この研究を続けるあたって横須賀市博物館の羽根田弥太館長はたえずご激励をいただいた。以上の方々に感謝する。研究費の一部は横須賀市教育委員会の文化財保護費を使用した。

文 献

- 藤田至則 (1951): 宮田層の堆積機構——地殻運動と堆積過程との相関々係. 地質雑, (57), 664: 21~28.
 ——— (1953): 宮田層の有孔虫化石とその堆積について. 東京教育大学理学部地質学鉱物学教室研究報告, 2: 17~24.
 蟹江康光 (1967): 下浦断層について——関東大震災時の地震断層. 三浦古文化, 3: 115~121.
 京浜急行電鉄 (1962): 京浜急行延長工事野比, 津久井間地質調査工事. 鹿島建設.
 ——— (1964 a): 京浜急行久里浜延長線建設工事津久井浜—上宮田間地質調査工事報告書. 東急建設.
 ——— (1964 b): 京浜急行津久井高架橋地質調査工事報告書. 大和基礎工業.
 ——— (1965): 京浜急行津久井浜—三浦海岸間地質調査工事. 大和試鑿工業.
 鈴木好一 (1932): 神奈川県厚木町北方の鮮新統 (其 2) 附 所謂宮田層及び大津層に就いて, 地質雑, (39), 462: 110~123.
 竹内 啓 (1959 MS): 三浦半島最南部の地質. 横浜国立大学卒論: 109.
 横浜国立大学地学科生 (1967 MS): 宮田層産軟体動物化石について. 応用地質学レポート. (筆記).

Abstract

The Pleistocene Miyata Formation unconformably overlies the Tertiary systems in the southern part of the Miura Peninsula. This formation has an extension of 4 km both in a north-south and east-west direction.

The outcrop of Tsukui yields many molluscan fossils from the tuffaceous coarse sandstone bed which occupies the northeastern part of this sedimentary basin. According to FUJITA (1953), this outcrop represents the lowest part of the Miyata formation. The author, instead, considers that this rock is a stratum which shaved the old Miyata formation and now lies in its uppermost part.